

特別分科会①【アドミッション専門人材開発】

第3回アドミッション・スペシャリスト能力開発研修会 (京都会場)

講師▶ 立脇 洋介 (九州大学アドミッションセンター准教授)
 講師▶ 木村 拓也 (九州大学人間環境学研究院教育学部門准教授)
 コーディネーター▶ 山本以和子 (京都工芸繊維大学工芸科学部准教授)

この分科会は、2017年度から設置しており、引き続き入試担当の大学教職員をはじめ入試の専門知識を取得したい方を対象とした高大接続領域の専門性の高い人材開発を目的とした研修会を開催する。今回は、「推薦・A0 入試の状況」「入試のリスクマネジメント」について取り上げる。なお、この分科会は九州大学次世代大学教育開発センターとの共同開催となる。

概 略

コーディネーターから、この講座が九州大学基幹教育院文部科学省教育関係協働利用拠点事業の協力を得て、成立していることとその九州大学でのアドミッション・スペシャリスト能力開発養成講座の概要を説明した後、報告者1の立脇氏より「国公立大学における特別入試の現状」として、現在の総合型入試の実施状況、試験内容と特徴ある事例の紹介およびそのパターン化の説明、さらに入試と入学後教育を連結させたプログラムの提示があった。次に報告者2の木村氏より「入試のリスクマネジメント」として、大学入試におけるリスクマネジメントの種類、テストと法律の知識、情報公開請求への対応、入試ミスの特徴や点検の必要性についてのレクチャーがあった。

到達点と今後の課題

今回も過去回に引き続き、分科会報告に対する質疑・全体討論は行わず、2人の講師のレクチャーを時間いっぱいまで実施した。

参加者は36名、申し込み段階で高校教員は29%、大学教員は17%、大学職員が43%であった。高校教員は、府外(福岡県、兵庫県、福井県)からの参加があった。大学教職員は、加盟校が35%を占め、北は長野県、南は熊本県からの参加があった。府外からの高校・大学関係者の参加が多いことが特徴である。

今回も昨年同様、アドバンス(中級)キャリアを対象とした。分科会の主旨を理解して参加いただいている方からは、次年度の開催についても8割以上の方が希望されており、毎年参加の固定層も形成されてきている。この分科会においては、高大接続の基本的知識や入試設計に対するテーマへの要望もあり、次回以降ではそれらのテーマで新たな企画を検討していきたい。



スライド1

第17回高大連携教育フォーラム
特別分科会①「アドミッション専門人材の育成」

国公立大学における特別入試の現状

立脇洋介
(九州大学 アドミッションセンター)

スライド2

0.はじめに 本日の内容

1. 特別入試の全体概要
2. 入試の事例紹介
3. その他

スライド3

1.全体概要 推薦入試とAO入試の違い

<原則> 推薦と学力検査の位置づけ異なる

推薦入試：校長の推薦や調査書を重視。学力検査を免除。

AO入試：能力・適性や意欲等を総合的に評価。推薦不要。

ただし…

スライド4

平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告に盛り込む内容等について(案)【主なポイント】

入試区分	「一般入試」⇒「一般選抜(推薦)」(従来型)	「AO入試」⇒「総合選抜(復核)」	「推薦入試」⇒「学校推薦型選抜(推薦)」
目的	主として、各大学の入学希望者の学力を評価し、推薦入試と併せて入学させること。	主として、各大学の入学希望者の学力・適性・意欲等を総合的に評価し、推薦入試と併せて入学させること。	主として、各大学の入学希望者の学力・適性・意欲等を総合的に評価し、推薦入試と併せて入学させること。
推薦者	推薦者なし	推薦者なし	推薦者あり
内容	学力検査あり	学力検査あり	学力検査あり
実施時期	推薦入試と併せて実施	推薦入試と併せて実施	推薦入試と併せて実施

スライド5

1.全体概要 推薦入試とAO入試の違い

<原則> 推薦と学力検査の位置づけ異なる

推薦入試：校長の推薦や調査書を重視。学力検査を免除。

AO入試：能力・適性や意欲等を総合的に評価。推薦不要。

ただし…これからは学力評価が必須に⇒違いが少なくなる

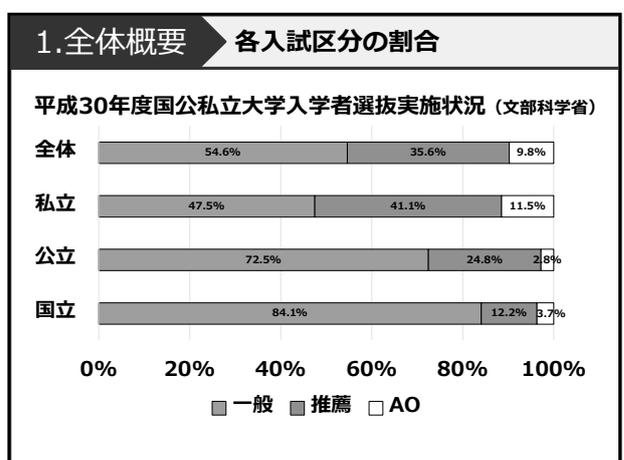
<日程> こちらの方が大きな違い

推薦入試：出願 11月～ 合格発表 12月～

AO入試：出願 9月～ 合格発表 11月～

※センター試験を利用する場合どちらも2月に合格発表

スライド6



1.全体概要 ▶ **試験の内容**

<国立大学経済学部のAO・推薦入試の試験内容>

	AO	推薦	合計
選抜区分数	17	48	65
基準評定平均	29%	81%	68%
センター	59%	38%	43%
面接・プレゼン	94%	69%	75%
小論文・総合問題	47%	69%	63%
その他	18%	10%	12%

・大半の大学がセンターまたは小論文で学力を評価（どちらも課していない学部は4/65）。

1.全体概要 ▶ **試験の内容**

<保健学科関連分野でのAO・推薦入試の実施状況>

センター試験	42%
教科試験・適正検査	5%
小論文・総合問題	67%
面接（個人・集団）・プレゼン	99%
グループ討論	5%
その他	2%

・ほぼすべての大学が面接と広い意味での学力試験を課している⇒一部で面接のみの推薦入試

1.全体概要 ▶ **試験の内容**

<理系学部でのAO・推薦入試の実施状況>

・国立大学全体で813募集単位・入試区分（6000名）

◆試験の回数		◆独自試験の内容	
独自試験なし（書類のみ）	2	小論文	325
独自試験なし（書類+センター）	48	教科試験	75
書類+独自試験1回	456	講義	77
書類+独自試験2回	53	面接（個人）	698
書類+センター+独自試験1回	252	面接（グループ）	18
書類+センター+独自試験2回	2	グループ討論	18
		プレゼン	50

1.全体概要 ▶ **試験の内容**

<理系学部でのAO・推薦入試の実施状況>

- ・独自試験がない入試（書類やセンターのみ）や独自試験を2回以上課す入試（多面的に評価）は少数派。
- ・多くの大学では、「書類審査+個別試験」を基本とし、学力をセンター試験で評価するかどうか
- ・独自試験として、9割の大学で面接があり、4割の大学で小論文が課される。

2.事例紹介 ▶ **特別入試のパターン**

- ①オーソドックス
- ②特別な出願要件
 - ・スペシャリスト選抜型
 - ・地域枠
- ③特徴のある課題
 - ・授業等参加型
 - ・学力重視型
- ④入学後に特別な教育プログラム（授業）
 - ・大括り入試
 - ・国際コース

2.事例紹介 ▶ **オーソドックス型**

- ・学力は、調査書（評定平均）、センター試験、小論文（推薦入試のみ推薦書）などによって評価
- ・主体性などは、志望理由書、面接などによって評価

課題：志望理由等に向かない学部

- ・医療系や教員養成系⇒職業と結びついており、明確。
- ・入学後に専門が分かれる大きな学部は、やっている内容自体が分かりづらい⇒志望理由との相性が悪い。

スライド 13

2.事例紹介 ▶ 特別な出願要件

スペシャリスト選抜型…特別な出願条件を課す
 例) 国際バカロレア入試 化学オリンピック入試
 募集人員：若干名 志願者：年1名いるかどうか
 ・特徴：該当する人が少数。該当者がいる時のみ合格。

課題
 ・限られた大学以外では継続的な実施が困難。
 ・入学後の教育をどうするか？
 ・募集人員の設定（例、英語活用入試）

スライド 14

2.事例紹介 ▶ 特別な出願要件

地域枠…自県の高校生や自県での就職が条件
 公立大学の推薦入試はこれが多い。
 ※推薦入試での**1校あたり**の上限人数
 ・近隣の志願者の多い高校のみに影響
 ※**SGH**や**SSH**などの高校は魅力的だが…。
 ・国立大学では**特定の高校を対象とした入試**はしにくい。
 ⇒そういう高校出身の人が得意な課題で代替。

スライド 15

2.事例紹介 ▶ 特徴のある課題

授業等参加型
 特徴：倍率が高く、受験生からの評価が高い⇒入試自体が高大連携活動。準備が大変。
 例) 九州大学共創学部AO入試
 1次選抜：書類審査（調査書、志望理由書、活動歴）
 2次選抜：二日間にわたり、多面的な能力を評価。
 講義に関するレポート。講義に関する集団討論と小論文。個人面接。

スライド 16

2.事例紹介 ▶ 特徴のある課題

授業等参加型
 例) 京都工芸繊維大学AO入試ダビンチ入試
 一次試験：講義と課題に関するレポート。教科試験の内容や思考力に関する内容。
 二次試験：学科ごとにレポートや面接を実施。
 例) 御茶ノ水女子大AO入試新フンボルト入試
 一次選抜：AO入試以外の高校生も参加できる**プレゼミ**に参加し、そのレポートと志望理由書などの書類審査。
 二次選抜：**文系 図書館入試 理系 面接やレポート**

スライド 17

2.事例紹介 ▶ 特徴のある課題

学力重視型…学力試験で人数を絞ってから面接。
 例、名古屋大学理学部推薦入試
 募集人員50名 志願者134名 一次合格78名
 一次選抜：センター 二次選抜：面接
 例、東北大学工学部AOⅢ（センター試験と筆記試験）
 募集人員116名 志願者344名 一次合格206名
 一次選抜：センター（900点）と出願書類（100点）。
 二次選抜：筆記（100点）と面接（100点）。

スライド 18

2.事例紹介 ▶ 入学後に特別な教育プログラム

大括り入試との組み合わせ
 例) 北海道大学は前期が大括りで一括募集で、**AOと後期が学部・学科別**。
 ・AOでは**専門分野を志望する理由が明確な人**。
 それ以外の人は、入ってから分野を選択。
国際コース入試
 例) 九州大学は文学部・法学部AO入試
 ・英語を重視した入試を行い、入学後も**特別なコース**。

3.その他	国公立大で設計する場合
<ul style="list-style-type: none"> ・（センター試験を活用する）推薦入試とAO入試は、1回ずつしか受験できない。 ・国大協は方針を出したが、センター試験を活用しなければ、他大学も受験する人もねらえる（AO入試）。 ・センター試験を活用する場合、近隣の大学での実施状況が強く影響。 <p>例）ある学部のAO入試の倍率が毎年高かった⇒九州地区の国公立でAOをしていたのは本学のみだった。</p>	

3.その他	今後の課題
<p><面接や志望理由書対策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校や予備校による指導：学部の内容の理解が進んだり、志望理由を明確にするなら大歓迎。 ・1年前の面接では多様だった希望進路が、次の年…。 <p>⇒ネガティブな影響がないような入試での使い方が必要</p>	